

# どうなる!? 原油価格



## トランプ大統領と

先月、ついにアメリカ合衆国大統領にドナルド・トランプ氏が就任しました。就任直後から矢継ぎ早に大統領令を連発し、メディアの発信と共に大きく注目を集めています。経済や、安全保障など様々な面で今後の政権とは異なる政策を打ち出してあり、エネルギーについても例外ではありません。そこで今回はトランプ大統領とエネルギー政策、とりわけ原油価格の動向について考えてみたいと思います。

「あちゃー!、やり過ぎたなあ...」と、たまには内心、思ったりするんだらうが?

ところで、ちょうど2年前のこの新聞でも原油価格についてお話ししました。タイトルは殆ど同じ「どうなる!?原油価格」。前年の11月に行われたOPEC総会で大分の予想を裏切、減産も見送ったこともきっかけに原油価格は下落、OPECの盟主サウジアラビアは、アメリカのシェールオイルの増産と泥沼の安売り合戦を繰り広げ原油価格はたった2ヶ月で80ドル台から半分の40ドル台に。その後、一時20ドル台まで落ちこんだ後、今年は50ドル台に回復してきました。

そんな中でのトランプ大統領の誕生です。今後、原油価格は上がるのでしょうか?下がるのでしょうか? とも考える前にトランプ大統領が公表しているエネルギー政策について確認しておきましょう。

### ①ペリ協定から離脱 ②石油・ガス削減の推進 ③パイプラインの推進

①のペリ協定は気候変動の原因とされる温暖化の防止に向けて190の国と地域が合意した枠組みです。この協定に対してトランプ大統領は就任前から懐疑的で、就任後に撤退することを明言しています。国務長官に任命されたレックス・ティラーソン氏は、世界のオムニブス、エクソン・モービル社の前CEOですから、石油・ガス削減を中心に掲げることは容易に想像できます。②のペイプラインはカナダからメキシコまでを結ぶ「キースト・XLパイプライン」の建設を再開する大統領令に先日サインしましたが、その推進派で、環境保護部長官に指名されたスコット・プリアット氏はオバマ前大統領による温暖化対策の目玉政策、「クリーンパワープラン」を廃止に追い込んだ張本人です。

このように、トランプ大統領も取り巻くエネルギーや環境分野の閣僚(事を見る限り、温暖化対策には懐疑的・否定的で化石エネルギーの復活を望む人がかなりです。今までのアメリカが取り組んできた温暖化対策は大きくブレーキがかかる、(場合によっては後退せざるを得ない)可能性が高いでしょう。

以上のことを踏まえると、今後、アメリカは産油国として今以上に存在感を増してゆくことが予想されます。昨年、40年ぶりに原油の輸出再開に踏み切ったこともあり、パイプラインは増強し、シェールオイルの増産に拍車がかかるでしょう。そこで重要なのが原油価格です。一昨年のエネルギー革命の際には1バレル40~60ドルと言われた採掘コストも現在は技術開発や規制緩和によって以前よりコストが圧縮され国際的な競争力は高まっていると言われています。

ここから考えられることが2つあります。1つは原油価格の上限が押し下げられるということです。昨年11月のOPEC総会にて8年ぶりに減産合意したことで原油価格は40ドル台から50ドル台へと一段高まりましたが、今後も原油価格が緩進すれば、コスト競争力をつけたシェールが巻き返すことで原油価格の土崩れ頭打ちとなり、一進一退の攻防となることが予想されます。2つ目は中東地域の不安定化です。今までのアメリカは原油(特に重質油)を中東地域から輸入していましたが、従って安定的な供給を確保するために、中東の安定化に一役買ってきたことが国内産油量の増加に伴って(特に、キースト・XLパイプライン)が完成すると重質油の自給率は飛躍的に向上する、中東地域との関係性は薄れ、今までのように中東和平に力を注ぐことがなくなることが予想されます。加えて原油価格が低迷すると産油国の財政状況は悪化するため国力の低下、結果として中東地域の不安定が懸念されます。

当面は原油価格の下げ止まりによって日本に比べても石油製品の高騰を避けられるという恩恵は期待できるかもしれませんが、少し長い目で見たときには中東地域の不安定化というリスクを孕んでいることも考えなければなりません。

ミカがバト面接に来た 2月24日の3年前のおはなし MIKIO



# 2月

大寒の日も過ぎましたが先月は雪が降って道路が悪く移動に時間がかかってしまったり大変でした。夜中や朝の外気温が-10℃以下-15℃だったよとの声を聞いて本当に寒い日が続きましたね。雪も降らないと水不足に悩んで、冬は冬らしい雪と寒さでなければいいね!! 今年々体があちらこちら痛かったりそんな歳頃になりました。1月は私の誕生日で千葉の実家の母から先日電話があってあのーあのーあいつ言うのです私はピンと来て誕生日って言ったからんて言うよと話しをするそう言うと言うので群馬に来て38年遠く離れていても気にして封がたまに日にはちが遠くにいる事もお礼が初孫の私の息子の誕生日は間違いなく忘れたことないです。

2017年がスタートしても1ヶ月が経ちました。最近は何日が経つのがすごく早いと感じています。なぜでしょうか。お家の2017年は長男が後厄、次男が前厄とかさなつた年になりました。男性無茶な行動をしてしまいがち、2人にも慎重に過ごしてもらっています。

注意しなければならぬのは  
前厄 お金と人の縁(次男の仕事に必要な縁)  
後厄 油断(長男に新画紙の行動に注意)

厄と言うと思いを考えたい事が 良縁もあつた  
前厄 直線がとれる  
後厄 家族の大切さを改めて知る事ができるかな? 本厄間支え代は一番新しい家族から